



こころ
P

生について考える 性について考える

「生（生きる）」とは？「性」とは？

家族で話をしたことがありますか。

先週、5年生を対象に、龍ヶ崎済生会病院産婦人科医の陳央仁先生による、いのちの授業が行われました。演題は、「生命の誕生とその大切さ ～自分らしく生きる～ ～君は愛されるために生まれた～」でした。

学校では、道徳や特別活動など教育活動全体をとおして、心について学びます。

特に、低学年の生活科の学習で、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったことなどを振り返ることによって、内面的な成長や自分自身のよさが理解できるようにします。そして、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち意欲的に生活できるようにします。中学年の保健体育の学習で、体が年齢に伴って変化すること、体の発育・発達には個人差があること、思春期になると体に変化が起こり、異性への関心も芽生えることを学びます。さらに高学年の保健体育の学習で、心は、さまざまな生活経験を通して年齢に伴って発達すること、また、心と体は深く影響し合っていることを学びます。

今回、陳先生は、産婦人科医としての視点と自らの体験を交えながら、いのちについてお話をしてくださいました。

子供たちは、陳先生のお話を聞き、家族はどれだけ自分の誕生を喜んでくれていたか、どれだけ自分のことを大切に思ってくれているか、そして自分のことを知り10年後の自分を想像し、「自分らしく生きる」ことについて考える機会となったようです。

<講演後の感想>

いつも私はなぜ生まれてきたのだろうかとか、なぜこの世にいるのだろうかとか思っていたけど、この講演を機に、私って愛されているんだな、私は生まれてきてよかったんだなって思えるようになりました。命は大切。生まれてきたのは愛されるため。生まれてきたことがキセキ。この言葉を胸に焼き付けて、自分自身を大切にしていきたいです。

母は、僕が生まれてくるとき、帝王切開で、その上出血多量だったそうす。母子手帳にも書いてあるのを見せてもらいました。大変な思いをして生んでくれたんだなと改めて思いました。生まれてからこんなにも大きくなってよかったです。今日の講演会の話を家族にも話したいと思います。僕の人生の中で、心に残る講演会でした。

赤ちゃんやお母さんの苦勞や今までの先祖からの命をつなぐリレーのことをなんとなく実感できた気がします。そしてさらにそれを大事にしていきたいと思いました。今まで私まで命のリレーをつないできてくれた人たちに日々感謝を忘れずいようと思いました。講演会から帰ったとき早速家族に改めて感謝の気持ちを伝えました。

命の大切さや自分の存在の大切さ、自分たちはみんなに愛されていることがわかりました。

最初は自分のことが好きだと思わなかったけど、講演を聞いて自分のことが好きになった。命は奇跡だと聞いたことがあったけど、改めて1億分の1だということがわかった。生まれてきてすごくよかったと思った。

苦勞をして私を生んでくれたお母さんはすごいし、感謝の気持ちがありません。いつも恥ずかしくて「産んでくれてありがとう」なんて言っていなかったんで、これからはどんどん言っていこうと思いました。

私は「愛に支えられて生まれてきて、愛に支えられて生きていく」ということを感じました。

一緒に生まれときの写真を見たり、スキンシップをしたりする時間を大切にしたいものです。「これまで」と「今」をつなぎ、「将来」につなげていくために。



租税教室



税の使い道、税の役割、税の必要性などについて学び、税について理解をすることを目的に、6年生を対象に実施しました。

水戸税務署の方からの質問。「1億円を捨てたとして、落とし主が現われず、自分のものになったとしたら、税金はかかりますか。」もしもの話ですが、子供たちはその答えに興味津々。1760万円も税金がかかると聞いて驚いていました。

そして、もしも税金がなくなったら世の中はどうなるのかを表した動画を視聴しました。多くのものに税金が課せられていること、税金は私たちの生活を豊かにするものであることを学びました。



防衛省交付金を活用しています

今年度も、防衛省の「特定防衛施設周辺整備調整交付金」を活用し、教育活動を行っています。



「大型プリンタ」による教材拡大提示



「プロジェクタ」を使った人権集会



学習ソフト「ミライシード」



による意見交流、ドリル学習、プレゼンテーション、「ドングル通信費」